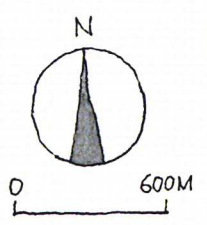
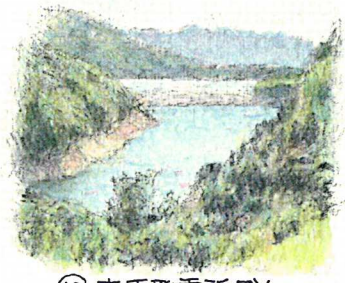


歴史の散歩道

いっぺんおいでえ
広島安佐



⑳ 南原峡 加賀津の滝



⑲ 南原発電所ダム



⑦ 熊谷氏菩提観音寺跡



⑤ ガラスの里



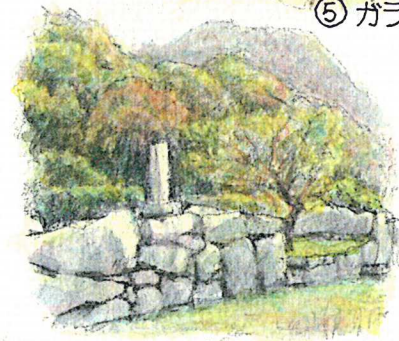
② 広島安佐商工会



⑱ 福王寺 鐘楼



⑰ 古墳群 青の古墳



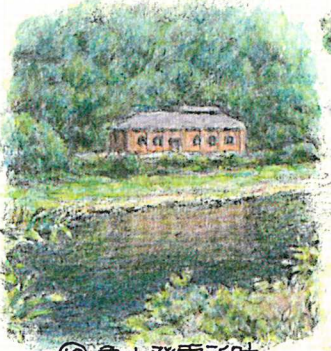
⑥ 土居屋敷跡



⑯ 安佐北区民文化センター



安佐北区民文化センター



⑮ 安佐北区役所



⑭ 柳瀬キャンプ場



⑬ 亀山発電所跡 (現 太田川漁業組合)



⑫ 千代の松



千代の松



熊谷氏墓 観音寺跡

⑥ 土居屋敷跡

⑧ 高松山



⑧ 高松山と太田川



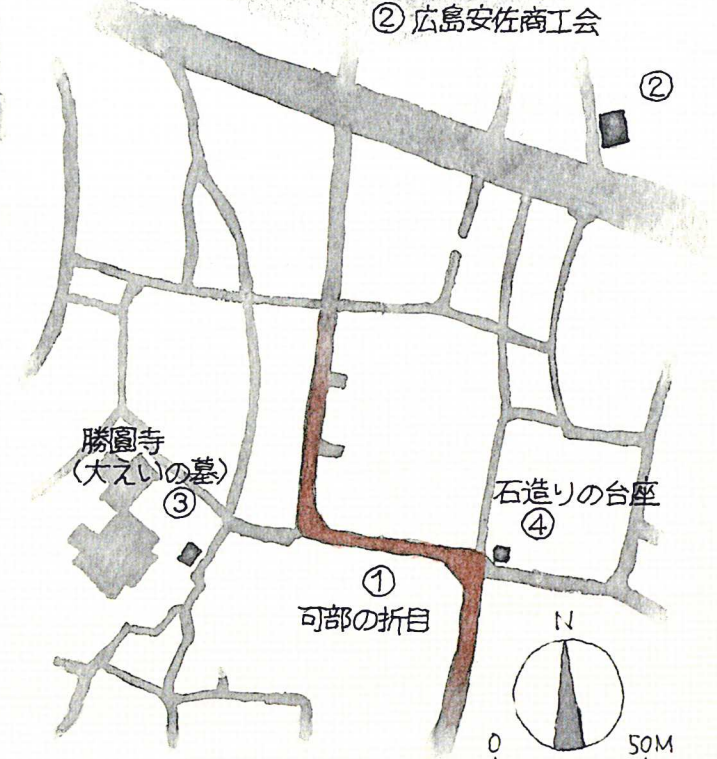
⑩ 旭鳳



⑪ 鉄灯籠



⑨ 寺山公園からの眺め



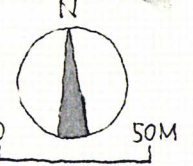
勝園寺 (大えいの墓)

③

石造りの台座

④

① 可部の折目



④ 石造りの台座



③ 大えいの墓

1. 可部の折り目

道が直角に2回折り曲げられている、独特の形状をした箇所です。

この「折り目」の謂れは、参勤交代の際、民衆は大名行列が見えなくなるまで土下座をしなければならず、その時間を短くするために道を鍵状に作ったという説と、可部町内が大火に遭ったため、その後の火事による延焼を少なくする目的でこのような道にしたという、2つの説があります。

可部旧道の古い家の2階軒下を見ると「卯建（うだち）」といわれる防火避けが施されているのが特徴です。

2. 広島安佐商工会

安佐北区の可部町商工会と安佐町商工会、安佐南区の佐東町商工会の3町商工会が合併して平成19年4月に設立した経済団体です。

管内で事業を営む方の相談相手として、経営指導員が配置されています。

3. 勝圓寺・大えい和上の墓

開基は不明ですが大同(806〜)年間といわれています。真宗の三大法難の1つに教えられる「三業惑乱」の際、宗祖親鸞以来の「一心帰命説」を唱え、ついに法難を退け、真宗の教義を守り通した一世の学僧「大えい和上」は勝圓寺の住職でした。この和上の墓と明治初期、広島藩の「にせ金事件」に連座し、自訴の後獄死したともいわれる南原屋木坂文左衛門の墓など由緒深いものが境内にあります。

4. 石造りの台座

日露戦争の凱旋記念碑として建てられ、その後火災時の警鐘台として利用されました。

ここには、「苧びす神社」もあり、毎年11月下旬に「苧びす講祭」が開催されています。

5. ガラスの里

紀元前15世紀に作られた古代ガラス等、ガラスの歴史を知ることができる貴重な資料（実物のガラス製品）を約100点展示しています。古代人の作ったガラスはその暮らしを垣間見るような気分にさせてくれます。第2展示室には江戸末期から昭和にかけて、生活の中で活用されたガラスを約100点展示しています。他にも吹きガラス、スタンドグラス、七宝焼、トンボ玉などの手作り体験できる工房・教室などがあり、各種ガラス手工芸が楽しめる可部の新名所です。

6. 土居屋敷跡

根の谷川左岸、高松山の西麓にあって、正面(西側)と北側の一部に築地の石垣が残っています。三入庄の地頭熊谷信直、高直、元直の屋敷跡と伝えられていますが、熊谷氏の高松城進出と密接な関係をもって成立したと考えられます。『芸藩通志』は「熊谷氏宅址」とし、「今に石壇1町余あり、宅の跡は畑となり、一堂宇あり」と記載されていますが、堂宇は失われています。石垣は菩提所の観音寺跡のものに比べ、やや石材が小さく技術も劣っていますが、同時代の作と考えられています。史跡「熊谷氏の遺跡」の一部に含まれます。

7. 観音寺跡

土居屋敷跡の根谷川対岸、雲石路沿いの山麓にあります。三入庄の地頭熊谷氏の菩提寺で、高さ1丈、長さ60間に及ぶ石垣がその遺構。境内の大部分は畠地になっています。観音堂一字が残っており、内部には如意輪観

音像と熊谷氏の定紋を刻んだ室町時代の須弥壇があります。この堂の裏(西)側には湧水池、南側に40数基の五輪塔と宝篋印塔があり、熊谷氏の墓地です。県指定史跡「熊谷氏の遺跡」の一部に含まれます。

8. 高松山の大文字

高松山は別名、愛宕山ともいいます。根の谷川の東に位置し、標高は338.5m。頂上には中世の頃、熊谷直時の居城、高松城跡が残っています。毎年5月の最終土曜日と日曜日には、高松山の中腹に数十個の提灯で『大』の字を作り、可部の初夏を彩ります。

9. 寺山公園

「寺山」が造成により整備され、憩の場として家族連れに人気があり、可部の街も眺望できます。

近くには『山まゆ』の飼育場も建設されています。

隣接して、県立可部高等学校も移転しました。

10. 旭鳳酒造

「旭鳳」のブランドで人気の酒造会社です。

創業は1865（慶応元年）。ベンガラ格子の店構えは昔の趣をそのまま残し、歴史を感じさせます。

11. 鉄灯籠かなどうろう（広島市重要文化財）

1808（文化5）年可部の鋳物師、三宅惣左衛門延政によって製作された高さ3.13m、基礎周囲5.65mの鉄の灯籠。大きさもさることながら全体の調和がとれ、細部の技巧も優れており、可部町の鋳物業の歴史を物語る遺物です。鉄灯籠のある「下の浜遊園地」は、太田川の川舟交通の船着き場の跡で、その入り口に建てられています。

12. 千代の松

樹高9m、胸高幹囲2.65mのクロマツで枝張りは東西17m、南北11mにも及んでいます。その形は、猿の手に見立てて人為的に育成されていることから、「猿猴造り」と呼ばれています。この松は、市内に残る老樹の一つとして貴重なものです。言い伝えでは、この老松は、昔の船問屋敷の名残りりで、大正時代、可部八景の一つに選ばれて以来、この名で呼ばれるようになったそうです。

13. 亀山発電所跡

太田川を上流に向かって今井田まで行くと、洋風煉瓦造りの建物があります。これが可部の町に1912(明治45)年に初めて送電した亀山発電所です。町内の小学校教育の課外授業にも取り入れられ、1973(昭和48)年3月まで可動。地元産業の発展と暮らしを助けてきました。

現在、建物は太田川漁業協同組合が利用しています。

14. 柳瀬キャンプ場

太田川の上流に位置し、キャンプには最適。近年松枯れにより伐採され、松の木も少なくなっているが、春、夏、秋に憩の場として多くの人に利用されています。

15. 安佐北区役所

16. 安佐北区民文化センター

17. 青古墳群

6世紀後半から7世紀にかけて築造された9基の小円墳からなっています。1号、3号、4号墳はいずれも直径10m、高さ2mで、内部主体は無袖

の横穴式石室。他もほぼ同様であったと推定されます。3号墳は、石室内に花崗岩の角礫を敷詰め、墳丘の裾に大小の角礫を積上げています。須恵器、土師器、鉄刀、鉄鏃などを出土しました。4号墳の石室は奥行6m、幅1.5m、高さ1.7mと大きく、須恵器、金環などを出土。裏には原迫古墳群14基が隣接します。

18. 福王寺

大治2(1127)年開基。嵯峨天皇の御代、諸国修行中の弘法大師が、福王寺に於いて、林の中の一樹に1丈有余の不動明王像を彫られて千百有余年と言われています。立木仏として県の重要文化財の指定を受けています。昭和52年9月3日の落雷により金堂は火災に遭いましたが、その後立派に再建築されました。「五鈷の杵」、天下の名石「さざれ石」、「灯明杉」等多くの寺宝があります。

19. 南原発電所

南原発電所は、太田川の支流南原川の水をせきとめて、上池と下池の2つの貯水池をつくり、この間の落差約300mを利用して派手する純揚水式発電所です。2つの貯水池をつくっているダムは、土盛りの外側に岩を積み重ねたロックフィルダム方式を採用しています。地下に建設した発電所は、最大出力62万キロワットで、1日の発電時間は、フル運転した状態で6時間発電できます。

20. 南原峡県立自然公園

総面積は925ヘクタールで、利用者は年間5万人。南原峡は、堂床山(859m)と冠山(753m)の鞍部(あんぶ)を源流とする断層溪谷で、源流一帯は高原状の広大な笹原になっています。下流には加賀津の滝や石采(いしうね)の滝、大滝などの滝や獅子岩、龍頭岩などの巨岩があります。付近には紅葉する落葉広葉樹が多く、また、シクナゲやヤマツツジ類も自生しています。交通の便もよく、溪谷の探勝、登山、ハイキングを楽しむ人も多いです。

付. 可部の「がんす」言葉

可部と云えば、この「がんす」言葉に代表されるように、語尾に「がんす」を付けるのが特徴です。

ただ、現在はお年寄り以外に使われる方は少なくなりました。

『可部の“願船坊”にゃあ、聴聞が　がんすか　がんせんか。がんしゃあ　がんす話が　がんしょうが、がんせんけえ　がんせんのでがんしょうてえ。』

訳：可部の「願船坊」（お寺）ではお聴聞があるのでしょうか？ないのでしょうか？あればあるという話があるのでしょうか、（話が）ないようなので（お聴聞は）ないのでしょね。

広島安佐商工会
平成24年6月謹製